

本県の K-ICT(神奈川県感染症対策チーム)の感染症専門医の助言を踏まえた、医療機関内におけるマスク着用の考え方

年間を通じてすべての患者、来院者及び医療従事者に一律にマスク着用を求めるのではなく、平時は個人の判断と呼吸器症状がある場合のマスク着用を含む咳エチケットを基本とし、地域における急性呼吸器感染症の流行状況、院内での発生状況及び患者の重症化リスクに応じて、マスク着用の運用を実施する。

【平時におけるマスク着用の運用】

マスク着用は個人の判断を基本とし、その上で、発熱、咳、咽頭痛、鼻汁等の呼吸器症状がある患者、来院者及び職員には、マスク着用を含む咳エチケットを求める。

【地域における急性呼吸器感染症の流行状況に応じたマスク着用の運用】

季節性インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、RS ウイルス感染症等の地域流行や増加傾向を踏まえて、患者、来院者及び医療従事者のマスク着用を推奨する。

【院内での発生状況に応じたマスク着用の運用】

同一病棟での複数発症、院内発症例の増加、医療従事者の発症増加、院内伝播またはクラスターが疑われる場合には、対象病棟又は施設全体で一時的にユニバーサルマスクング（発熱や咳などの症状の有無にかかわらず、施設や空間にいるすべての人が常時マスクをすること）を導入する。

【患者の重症化リスクに応じたマスク着用の運用】

血液内科、造血幹細胞移植、臓器移植、ICU その他の高度免疫不全患者が多い部門など、重症化リスクの高い患者が多い診療科等については、地域流行の程度に関わらず、部門ごとのリスク評価に基づき、継続的または早期のマスク着用を検討する。